

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300864
法人名	有限会社うへの福祉会
事業所名	グループホームうへの
所在地	鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1 (電話) (0994) 40-3181
自己評価作成日	令和2年 2月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームうへのでは、スタッフの知識向上に力を入れており、毎年、介護福祉福祉士の資格習得への取り組みを行っています。今後、見取りケアが必要となってくることが予想され利用者の方、一人ひとりの思いを尊重し、ご家族や在宅支援の専門医師との連携を図れるように日々のサービス提供に力を入れています。利用者の方が楽しみや喜びを感じて生活して頂けるように、UENO-HALL(うへの福祉会体育館)を利用して運動会や秋祭り、クリスマス会などを開催しており、町内の夏祭りやグランドゴルフ大会などに参加し、地域の方々との交流を深めております。グループホームうへのでは、特殊浴槽を完備しており、スタッフの介護負担軽減に配慮を行っています。今後も利用者の方々が安心して生活ができるように支援し、ケアの向上に努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「①自分のペースで生活できるように、あたたかく見守ります。②清潔な場所でオシャレをして、いつも笑顔で楽しく過ごします。③家族や地域住民との時間を大事にします。④趣味活動を活かしながら生きがい作りを持ち続けます。」を運営理念として掲げ、毎週月曜日に利用者と職員と一緒に理念を唱和することで意識付けしている。

理念の「家族や地域との関わり」を中心に支援していきたいと考えており、事業所が所有する体育館を利用して、運動会やクリスマス会、秋祭り等の行事を開催している。特に秋祭りに関しては、旅一座の舞台公演があり、家族や地域住民に楽しんでもらっており、地域の恒例行事となっている。

基本的に入浴は週3回、午後からとしているが、希望がある場合やトイレの汚染時等、随時入浴できる体制をとっている。各ユニットにある浴槽とは別に、特殊浴槽を備えているため、入浴が困難な利用者でも安全に入浴することができ、本人や家族の安心と満足につながっている。入浴後は状態に応じて皮膚ケアのための保湿クリームを塗布したり、手作りの経口補水液を飲んでもらい脱水予防に努めている。

運営推進会議では、主に利用者状況や活動内容、研修報告等を行うほか、事故やヒヤリハットに関することについても、身体拘束の話を変えて説明するなど、事業所の実情を詳しく報告することで、率直な意見をもらい支援に反映させている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設時より掲げている理念を大切に、毎週月曜日の朝に職員と利用者様と一緒に唱和を行い、日々のケアでの実践に努めている。	毎週月曜日に理念を唱和すると共に、毎月の職員会議録に理念を記載することで意識付けを図っている。本人本位の支援は基より、家族や地域住民との関わりを大切にしながら支援につなげたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事などにも参加している。体育館を利用してして、運動会や秋まつり、クリスマス会を開催して、地域の方々との交流を深めている。	毎年、事業所が所有する体育館で開催している秋祭りに旅一座の舞台公演があり、家族や地域住民を招待して楽しんでもらっており、地域の恒例行事として定着している。地域の敬老会への参加や中学生の職場体験を受け入れ交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	グループホームや体育館は、鹿屋市の指定災害避難所となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議で、現状や日々の活動の報告を行い、意見交換を行って、サービス向上に努めている。	会議には家族代表や町内会長、民生委員や行政職員等が参加し、主に事業所の利用者状況や活動内容、研修や事故報告等を行っている。参加者からは、災害時の地域との連携について意見が出されたり、感謝の言葉をもらうこともあり、やりがいに変え、サービスに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で、定期的に意見交換を行い、各手続きの際に話をして利用者様や地域の方たちと一緒に協力を行っている。	行政には介護保険関係の書類提出や運営上の疑問や相談事が生じた際に出向き、助言をもらっている。また、地域包括支援センター主催の研修の案内や行政から認知症サポーターに関する問い合わせを受けるなど日常的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などの共通の認識として、利用者様が安全で安心できる環境作りを行い、身体拘束の必要がないケアを実践している。玄関の施錠は防犯上、夜間帯のみ行っている。	身体拘束に関する研修を年1回実施するほか、身体拘束廃止委員会による話し合いが定期的に行われ、職員会議で報告している。言葉による拘束については、その都度、気付いた時に注意したり、必要に応じて個別に面談し注意喚起につなげている。自由な暮らしを支援するため、日中は施錠せず、さり気ない見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会のメンバーを中心に、外部研修に参加し、情報を交換し、職員全員で意識の共有を図り、虐待ゼロに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉サービス利用援助事業、青年後見人制度を利用されている利用者様については、不安なく制度を利用できるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	受け入れの際は、重要事項説明書や契約書の読み合わせを行い、家族方の不安や疑問点についての解決を行っている。また、その都度、相談なども丁寧に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱の設置や、面会時に家族の方の要望を聞いて、意見を反映し、日々のケアの向上に繋げている。また、電話対応でも要望聴取し、サービスの向上に努めている。	面会時は、必ず職員が身体状況や日頃の様子に加えリスク説明を行っており、家族からも意見や要望を尋ねている。新たに把握した情報は職員が自由に記入することができる「連絡帳」に記録し、共有するようにしている。また、意見箱の他に、苦情受付箱を設置するなど、広く要望を汲み取れるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で話し合いを行い、職員同士で意見や提案し、事業所、法人のレベルアップに繋がれるように努めている。	業務中の会話や毎月の職員会議で職員の意見を聞くほか、勤務体制や健康面に関する意見については、随時個別に話を聞いている。また、研修については、「外部研修参加ファイル」を作成し参加希望者を募ると共に、勤務表作成時には休みの希望を聞き反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けて、研修などに積極的に参加し、個人のスキルアップに努めている。また、職員の意欲向上や知識及び技術の向上ができるように内部研修などで、情報収集を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に積極的に参加して、情報を発信したり、毎月の職員会議で内部研修のテーマを決めて、開催するなどして、職員の成長に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修等の場で情報交換を行ったり、体育館を活用した他事業所との交流を深める機会を設けて、その中でサービスの質の向上について取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日々のスキンシップ、コミュニケーションを通し、信頼関係を築き、不安な事や要望など、何でも話して頂けるように、信頼できる関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者、家族の要望に少しでも応えられるサービスが出来る様に会話を重ね、信頼関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者、家族との会話を重視し、初期対応及び、それに続く支援が出来る様に会話を重ね、信頼関係作りに努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活を共に過ごし、コミュニケーションや会話を大切にして、心に寄り添うケアに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、面会時など近状報告を行い、必要な時は、電話連絡を行い連携を取りながら、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人がデイサービスを利用されておられ、時々、面会に連れて行くなどして、関係が途切れないように支援を行っている。	これまでの馴染みの人や場についてを、入居時に本人や家族、関係者等から情報を収集し把握しているが、職員数の問題や事故を心配するあまり、個別に希望する外出先に連れて行くことができない状況が続いており、管理者はもっと柔軟に外出できないかと考えている。	入居後もこれまで培ってきた馴染みの関係が継続できるよう、個別に希望する人や場所に出かけられる機会を作るにはどのようにしたらよいか意見を出し合い、本人本位の暮らしにつなげられるケアに期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで、利用者様同士が関わりを深め、楽しく過ごして頂ける様、職員が間に入り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の状態や今後の対応などについての問い合わせに対して、情報交換を図りながら、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅での生活や日課などを聞き取り、少しでも本人の意向に添える様に努めている。	本人本位の生活が送れるよう入居時に本人、家族から生活歴等の情報を詳細に聞き取り支援につなげている。入居後も利用者との関わりの中で気付いたことや家族の意見等、新たな情報についてを連絡帳に記入し職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中から、生活環境を聞き取り家族や親戚の方などの情報を参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや連絡帳を活用し、日々の変化を職員間で把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議だけではなく、ケース会議や日頃のケアの現状にも意見を出したり、家族からの意見も参考にしながら、利用者様に合った介護計画を作成できるように心掛けている。	利用者からは日常会話や日々の様子から、家族からは面会時に意向を尋ね、ケアプランに反映させている。毎月実施するユニット会議で利用者全員の身体状況等近況についてカンファレンスを行い、併せてモニタリングも含め、現状に即したケアプランを作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践は、ケアプランチェック表に実施した項目のチェックを行っている。その中でサービス内容の見直しが必要なカ所に関しては、ケア会議を実施し反映等を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望に合わせて、施設内の柔軟な支援やサービスを取り入れ多機能化に取り組めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をしっかりと把握し、一人ひとりが安全で豊かな暮らしを楽しめる様に、地域の方々との交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する、かかりつけ医と密な連携を図り、支援体制を整えている。かかりつけ医との密な連携の中で、本人に合った必要な医療支援を行っている。	入居前の病状の経過を把握すると共に入居後もこれまでのかかりつけ医を受診できるよう家族と職員が協力して支援している。また、4箇所医療機関からの訪問診療に加え、週1回は訪問看護も受けられ、利用者や家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に急変時の対応には、かかりつけ医の看護師、医療連携先の看護師と迅速に対応が行えるように、体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時に病院関係者や家族とカンファレンスなどを開催し、情報交換や相談に努め、密な連携関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や早い段階で家族等に書面等で十分な説明を行い、日頃から病院関係者等としっかり連携、連絡の体制を整え、良好な関係の構築に努めている。	重要事項説明書に看取りに関する項目を入れ、入居時に重度化や看取りに関する説明をしておき、入居後も身体状況に変化が見られた時等、随時説明することで変化する思いを汲み取るようにしている。看取りを行う際は、主治医や訪問看護等、関係者全員で支援方法についてを話し合い、24時間体制で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを備え、器具の使用方法、緊急時の対応に関して研修等も行い、共通認識に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、夜間想定で避難訓練を行い、1回は自主訓練の実施。2回目は、消防職員の立ち合いの元、実施している。風水害等の訓練に関しては今後も検討が必要。</p>	<p>1回は消防署が立ち会い、1回は自主訓練として、計2回災害訓練を実施している。訓練に地域住民の参加は得られなかったが、運営推進会議で参加を呼び掛けたり、町内会長が地域に案内を出してくれている。飲料水や食料等の備蓄に関しては、隣接事業所に一括して保管している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方それぞれの個性を尊重し、声掛けにも自尊心やプライバシーに配慮をしたケアに努めている。	接遇や認知症に関する研修を定期的に行い、利用者の気持ちやプライバシーを損ねないように、さり気ない声かけに努めている。また、日々の様子から利用者のしたいことは何かを汲み取り、実現できるよう支援につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を楽しみながら、思いや希望を引き出す努力を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムやペースを大切に、利用者の希望に添える様に支援し、その人がその人らしい生活が送れるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人や家族の言葉を元に、その人の好みやお気に入りを理解し、その人らしい見出しなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回、嗜好調査を行い、利用者の方の食事の好みを知る事により、楽しく食事が出来る様に配慮を行っている。	朝食は事業所で準備するが、昼食と夕食は法人の厨房で調理したものを提供している。年1回嗜好調査を実施し、ラーメンや刺身を提供するなど食べたい物のリクエストに応じている。季節メニューも工夫しており、食べる楽しみを大切にしている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合った栄養バランスを考慮し、水分量、食事量を一人ひとりの摂取量の目安を決め、全量摂取出来るように支援を行っている。(無理のない様、声掛けと見守りの実施。)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い個人の状態に合わせて、職員が支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は出来るだけトイレでの排泄をして頂き、一人ひとりの排泄パターンを理解した間隔で誘導を行っている。	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を基本とすることで、補助具に頼らない支援につなげている。また、排泄の意思がなくてもトイレに行くことができれば、こまめに誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取を工夫し、毎朝の冷たい牛乳、おやつではサツマイモを使用する等、朝食後のトイレ誘導等で予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を実施。曜日や時間はある程度限られるが、体調面や温度は個々に応じて行っている。	基本的には週3回午後からの入浴としているが、随時状況に応じ、いつでも入浴は可能である。入浴が楽しみとなるよう、ゆず湯を提供したり、特殊浴槽の導入により、入浴が難しかった利用者も安全に入浴できるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者、一人ひとりの健康状態を見ながら、安心して入眠出来る様に環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食前後の薬の誤薬がないように、職員同士で名前の確認、利用者様にも名前の確認を行って頂き、状態観察し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の無理のない範囲で、洗濯物たたみなどを行って頂き、又、創作活動、誕生会、喫茶コーナーなどを実施し楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や外気浴を行っている。また、季節ごとの花見やドライブなど季節感を楽しんで頂いている。	季節毎の花見やドライブを年間行事計画に組み込み外出しているが、回数的に少ないため、管理者としては、当日の天候や利用者の気分で出かけられるよう、もう少し柔軟に支援できないかと考えているところである。室内ばかりではストレスにつながるため、日常的に散歩に出かけ、外気浴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人様がお金の管理が厳しいのが現状であり、現在自己管理をされている方はいらっしゃらない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を頂いたときは、本人様とお話され、職員が日頃の様子等をお伝えしている。年賀状等は出来るだけ、本人様に書いて頂き、職員が一言添えてお出ししている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の清潔を心掛け、季節の花や壁画に季節の物を飾り、季節感を感じて頂いている。利用者、職員と一緒に創作活動に取り組み、作品作りを楽しんでいる。</p>	<p>天井の高いリビングには明かり取り用の窓があり、照明もLED化を図り大変明るく、季節毎の作品や家族が手作りしたぬいぐるみも飾られ、楽しいふに気が感じられる。ユニット毎の浴槽とは別に特殊浴槽を備えているため、歩行困難な方でも入浴を楽しむことができています。トイレは2箇所あり、手すりが充実しており使い勝手が良い。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人で過ごしたい方は居室でゆっくりと過ごして頂き、リビング内のテレビの前にソファを置いてお話をしながら、ゆっくりと過ごして頂けるようにスペースを確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた物品や好みの物を置いて、心地良く、安心して過ごせるように工夫している。</p>	<p>エアコンに電動ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられ、自宅から持ち込まれた馴染みの物や愛着のある品を飾ることで、居心地良く過ごせる環境にしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのアセスメントを重ね、現状把握に努め、自立した生活が送れるように心掛けている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない